

彦根城が示す、江戸時代の政治のカタチ

「世界遺産に登録されるのは天守だけ？」「結局、どこまでのの？」と聞かれることがあります。実は、世界遺産の登録を目指しているのは、天守だけではなく、『政治ゾーン（赤線の中）』まで。彦根城は、政治ゾーンに江戸時代からあるものがとてもよく残っていて、江戸幕府を支えていた大名による政治のカタチを説明できるからです。これは約260年続いた江戸時代の平和の礎を語るもので、世界に誇れる遺産です。

問 彦根城世界遺産登録推進室 ☎ 26-5833 FAX 26-5899

政治ゾーン



中堀より内側が、政治のカタチを表す政治ゾーンです。ここにある「御殿」は、大名と重臣と一緒に政治の話し合いをした場所であり、大名の生活の場でもありました。ここを取り囲むように重臣たちも暮らしていました。

城の範囲

現在外堀のほとんどは埋まっていますが、江戸時代には水が張られており、外堀に囲まれた範囲が「城」でした。そして、城下町は城の外まで広がっていました。

天守



天守

御殿

内堀

中堀

外堀

黄色線の内側が城の範囲だったんだ。



ハクチョウ隊長

江戸時代の絵図と航空写真を見比べると、政治ゾーンの形は変わっていないカモ。



カルガモさん



▲ 御城下惣絵図（彦根城博物館蔵）